

第19回大津市情報化推進懇話会 議事録

令和8年1月26日(月) 15:00~16:15

大津市役所 本館4階 議会局第4委員会室

1 開会

事務局より挨拶

2 会員紹介

事務局より会員及び事務局員紹介

3 議題

「自治体情報システム標準化の進捗状況の報告について」

-----資料に沿って事務局から説明(略)-----

(事務局)

以上で「自治体情報システム標準化の進捗状況の報告について」説明を終わります。

(座長)

ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

(会員)

今後、標準化に向けて障害者福祉や後期高齢者医療などの部門について取り組まれていくと思いますが、各自治体によって、サービスの内容等が違ふと考えるが、システムとしてどのようにデータ等の共通化を図っていくつもりでしょうか。どのように標準化させるのか。

(事務局)

おっしゃっていただいたとおり、自治体によって取り扱っている内容が異なる場合があります。現在、どういった事例が想定されるか洗い出している状況です。システムのパッケージで運用できない案件が生じた場合は、標準化ではカスタマイズは出来ないため、カスタマイズではなく、外付けツールで対応となるが、基本的にはパッケージ対応でできるよう調整していく予定です。

(会員)

自治体情報システムが標準化されることによって、住民の利便性の向上やコスト削減など今後期待したい。

(会員)

標準化を進めておられる中で、障害などはありませんでしたか。

(事務局)

一部データ連携などエラーが発生した部分もありましたが、手動実行などで対応し、大きな障害などは起きておりません。また、業務影響もありません。

(座長)

他にご質問やご意見ございませんか。他にご意見ご質問がなければ、次に議題2の天津市DX戦略の進捗状況の報告について、事務局からご説明をお願いいたします。

「天津市DX戦略の進捗状況の報告について」

-----資料に沿って事務局から説明（略）-----

(事務局)

以上で「天津市DX戦略の進捗状況の報告について」説明を終わります。

(座長)

ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

(会員)

ポケットおおつのミニアプリの中で最も多く利用されているのはどのアプリでしょうか。

(事務局)

現時点において、ミニアプリについては、これから利用されていくものとして認識いただけると幸いです。ミニアプリについて説明させていただくと、例えば「防災アプリ」については、有事の際に避難所までガイドすることや「イベント」については、市主催の行事に参加いただいた方にポイントを付与していくなどの活用を考えております。「お知らせ」につきましても、市政の情報を発信していく予定です。

(会員)

大変良い取り組みだと思います。特に防災については、事が起こってしまってから初めて使用するでは何もできないと思います。練習として、市民の方に使っていただくということが大事だと考えます。例えば防災訓練などのイベントでアプリを使用してもらっておくことで、有事の際には大きな混乱を軽減できるのではないかと考えます。ぜひこのような取り組みを進めていただければと思います。

(会員)

市のLINEのアカウント登録者数はどれくらいか。ポケットおおつはまだまだ伸び代があるかと思いますが。

(事務局)

LINEの登録者数は、約10万人(※令和8年1月26日時点の登録者数は93,351人)です。ポケットおおつは、令和7年10月から始まったので、LINEには及びませんが、まずは、最低3万人に登録していただくことを目標にしています。そのために、ゴミのカレンダーなどをミニアプリ化するなど、拡充していくことで更に登録者数を伸ばしていきたいと考えています。

(会員)

ぜひ、ポケットおおつもLINEの登録者数と同様の数字を目指していただければと思います。

(会員)

ポケットおおつをインストールしてみた。今まで、欲しい情報を市のホームページで検索したり、違うサイトに行って検索したりしていたが、1つにまとまっていて、とても便利になっていると思う。一方で、高齢者の方などスマートフォンの扱いが不慣れな方については、アプリをインストールするまでが難しいかと思いますが、そのあたりのフォローもしていただく方が良く考えます。また、3万人の登録目標に向けて、事業者や商工会議所等を交えて、周知を図っていくことが良いと考えます。

(会員)

ノーコード・ローコードの活用について、業務の削減時間が目標値と実績値が大きく違って驚いている。

(事務局)

アンケートをとって計算されている結果ではありますが、これまで、どれだけアナログだ

ったかという事がわかります。実際、各所属がバラバラで行っていた事務を1つのシステムにまとめて行うことで、効率化が図られています。

(会員)

それだけ手応えがあったということだと思います。1点気になるのが、予算額が0であること。今後、提供されているサービスが更新されなくなるといったケースもあるかと思いますが、そのあたりのリスクも踏まえ、進めていただければと思います。

(座長)

他にご質問やご意見ございませんか。他にご意見、ご質問がなければ、次に議題3の生成A Iの利用について、事務局からご説明をお願いいたします。

「生成A Iの利用について」

-----資料に沿って事務局から説明（略）-----

(事務局)

以上で「生成A Iの利用について」説明を終わります。

(座長)

ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたら、ご発言をお願いいたします。

(会員)

生成A Iは、まだまだ怖いところがある。生成A Iは、サーバー側で学習能力があるため、生成A Iに投げかけたプライバシー情報が、別のところで投げかけられた問い合わせに対してその内容が知らず知らずのうちに第三者にリークされる場合もあり、情報の漏洩や風評被害に繋がる可能性がある。生成A Iを利用することにより、職員の思いもよらない方向で、市民の方に迷惑をかけるリスクがあるが、そのあたりのプライバシーはどのように考えておられるか。

(事務局)

本市において利用している生成A Iについては、個人情報を入力してしまった場合には、フィルタリング機能が搭載されており、サーバー側まで情報が行き渡らない仕様になっています。また、入力した情報を学習しない仕様としているため、そのあたりのリスクは問題ないと考えています。

(会員)

学習しないということでは、逆に言うと生成A Iの強みが無くなるということ。学習能力があるから、きめ細かなサービスが可能となるのも事実。現時点では、現状の取り組みで問題ないと思うが、生成A Iの利用について、今後市民の理解を得ながら進めていくことが望ましいと考えます。1つ参考として知っておいていただきたいのですが、最近では生成A Iのコンピュータを、オンプレミス型での運用を考えられている。オンプレミス型にすることで、利用される範囲が狭まり、プライバシーなどのリスクを低くできるというもの。しかし、現在の生成A Iはデータセンター1つ分くらいのコンピュータを用いて、正確な答えを出しているため、オンプレミス型で運用するには、まだまだ技術的に実現できない状況である。そういった技術の流れがあることを知っておいてもらいたい。

(会員)

セキュリティの面については他の会員様もおっしゃるとおり、怖い部分がある。研修を職員に対して実施されているとありましたが、専門の方に来ていただいてしておられるのか。

(事務局)

現在は内部講師として、職員が研修を行っています。生成A Iの回答が本当に正しいわけではないため、複数の目で確認することやセキュリティ面についても、本市で定めている生成AIの利用ガイドラインに沿って研修を行っているところです。

(会員)

生成A Iの利用によって、効率化が図られ、市民の皆さんに向き合える時間が増えるということをおっしゃっていただいていた。大変素晴らしいことではありますが、ぜひ職員の方には、自分やご友人、ご家族のために向き合う時間にも充てていただきたいと思います。そうすることが、結果的に市民の方に向き合えることに繋がると考えます。

(座長)

他にご意見、ご質問ございますか。他にご意見、ご質問がないようでしたら、本日の議題につきましてはすべて終了いたします。長い時間ありがとうございました。

-----閉会-----